

話を聞かせて頂き、天国におられる故・小宮義璋先生に心からお礼申し上げる。

### 引用文献

- 神奈川県公園協会・丹沢自然環境総合調査団企画委員会(編), 1997. 丹沢大山自然環境総合調査報告書, 丹沢山地の自然. 神奈川県環境部. 636 pp.
- 木元新作, 1984. ハムシ科 Chrysomelidae. 原色日本甲虫図鑑 (IV) (林匡夫・森本桂・木元新作, 編). 保育社. pp. 147-222, 29-43 図版.
- 木元新作・滝沢春雄, 1994. 日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説. 東海大学出版会. 539 pp.
- 小林比佐雄, 2000. ハムシの生活 - 昆虫研究の手引き -. 信毎書籍出版センター. 149 pp.
- 松本和馬・藤山直之・小林憲生・太田有理・片倉晴雄, 2004. 関東地方西部の山地におけるルイヨウマダラテントウの寄主植物としてのオオバアサガラ. 昆虫 (ニューシリーズ) 7(3): 91-96.
- 松本和馬・福岡康浩, 2009. 関東地方でヤマブキソウを寄主植

- 物とするルイヨウマダラテントウの分布および近隣の同種集団との関係. 昆虫 (ニューシリーズ), 12(2): 91-96.
- Matsumoto, K., T. I. Kohyama, H. Katakura, 2009. A newly recorded host plant for the leaf beetle *Agelasa nigriceps* Motschulsky, and differences in feeding habits between host-specific populations. *New Entomol.* 58(3/4): 57-61.
- Ohno, M., 1967. A revision of *Argopus*-species occurring in Japan. *J. Toyo Univ. Gen. Ed. (Nat. Sci.)*, No. 7, 35-51.
- 大野正男, 1968. 佐渡のハムシ相. 長岡市立科学博物館報告. (5): 21-38.
- 丹沢大山総合調査団(編), 2007. 丹沢大山総合調査学術報告書. (財)平岡環境科学研究所, 神奈川県. 794 pp.
- Yano, T. 1965. Larval stages of the leaf-miners found in Shikoku (Coleopterous leaf-miners of Japan VII). *Trans. Shikoku Entomol. Soc.*, 8: 115-132.
- 湯本貴和, 松田裕之(編), 2006. 世界遺産をシカが喰うシカと森の生態学. 文一総合出版. 212 pp.

(2012年2月8日受領, 2012年3月5日受理)

### 【短報】青森県におけるニセモンキマメゲンゴロウの記録

ニセモンキマメゲンゴロウ *Platambus convexus* Okada, 2011 (図1) は, これまでのところ国内では最も新しく記載されたゲンゴロウ科の昆虫である (Okada, 2011). タイプ産地を含めて, これまで北海道南部でのみ確認されていたが, 筆者は青森県で採集したので, 本州初記録としてここに報告する。

1♂1♀, 青森県五所川原市磯松 (磯松川), 30. IX. 2011, 筆者採集・保管。

採集場所は磯松川の河口から約2 kmの付近であり, 木々に囲まれた薄暗い環境で, 流幅は約2 m, 最深部の水深は約0.5 mであった (図2). 流れの緩やかな場所の, 陸上から水中に垂れ下がった植



図1. 五所川原市磯松川産ニセモンキマメゲンゴロウ。

物の下からタモ網による掬い取りで採集した。

また, 同所ではモンキマメゲンゴロウ *Platambus pictipennis* (Sharp, 1873) 5♂♂2♀♀ も得られた。都合上, 30分ほどの採集であったために精査できていないが, 河川内における両種の棲み分けは見受けられなかった。

両種は, Okada (2011) が示しているように, 前胸腹板突起がニセモンキマメゲンゴロウでは竜骨状を呈する (図3A) のに対し, モンキマメゲンゴロウでは平たい (図4A) ことで判別が可能であった。

このほか, 当地で採集された両種の形態を観察した限りではあるが, ニセモンキマメゲンゴロウでは, 前胸背の前角にある黄紋と鞘翅基部の黄帯から側縁に沿って続く縦帯状の黄紋 (矢印で示した部分) が明瞭に確認できる (図3B) こと, 生時



図2. 採集地点 (磯松川)。

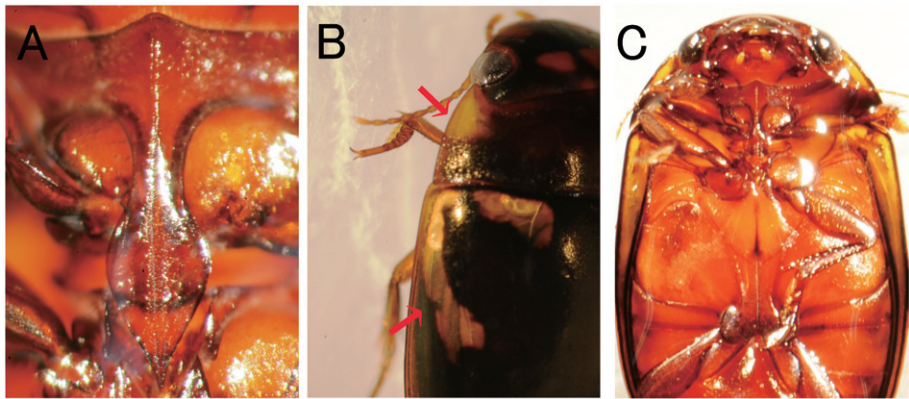


図3. 五所川原市磯松川産ニセモンキマメゲンゴロウの外部形態. A: 前胸腹板突起, B: 前胸背および鞘翅の黄紋, C: 腹面.

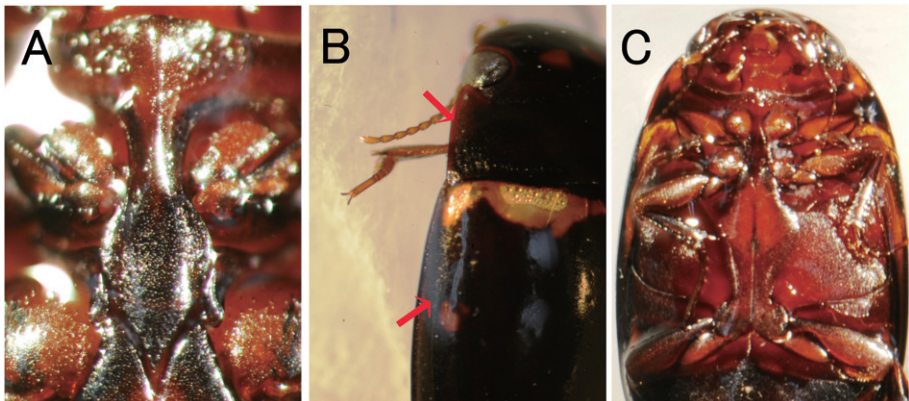


図4. 五所川原市磯松川産モンキマメゲンゴロウの外部形態. A: 前胸腹板突起, B: 前胸背および鞘翅の黄紋, C: 腹面.

の腹面が明赤褐色（図3C）であることで、それらの黄紋が認められず（図4B）、生時の腹面が暗赤褐色（図4C）のモンキマメゲンゴロウとは容易に区別された。

なお、青森県の津軽半島からは、アラメケシゲンゴロウ *Hyphydrus laeiventris tsugaru* Nakane, 1993, サロベツナガケシゲンゴロウ *Hydroporus fuscipennis* Schaum, 1868, エゾヒラタヒメゲンゴロウ *Colymbetes tolli* Zaitzev, 1907, オオシマゲンゴロウ *Hydaticus aruspex* Clark, 1864, ゲンゴロウモドキ *Dytiscus dauricus* Gebler, 1832 など、北海道と共通するゲンゴロウが記録されている（森・北山, 2002; 池田・高橋, 2003）。よって、北海道南部から記録されたニセモンキマメゲンゴロウが当地に分布することは十分に予想されることではあった。しかし本州の他の地域に分布することも考えられるので、今後の調査が望まれるとともに、これまでモンキマメゲンゴロウと同定されていた標本の再同定も行う必要があると考えられる。

末筆ながら、発表を薦めてくださった神奈川県

立生命の星・地球博物館の苅部治紀氏と福岡県保健環境研究所の中島 淳氏、および本報告にあたり種々ご教示賜った愛媛大学ミュージアムの吉富博之博士に厚くお礼申し上げます。

#### 引用文献

- Okada, R., 2011. A new species of the genus *Platambus* (Coleoptera, Dytiscidae) from Hokkaido, Japan. *Elytra New Series*, 1(1): 31–38.
- 森 正人・北山 昭, 2002. 改訂版図説日本のゲンゴロウ. 231pp. 文一総合出版, 東京.
- 池田都志也・高橋 誠, 2003. 青森県におけるサロベツナガケシゲンゴロウの記録. 月刊むし, (394): 2.

(北野 忠 259-1116 伊勢原市石田631 A-203)